

謹呈

瑞祥春禧先祝新年

之禧慶以祝一併白

大人之萬福以禱

奉候隨少正儀無事

加馬歇候而昨八日着

京仕候之知也之支那

大有醇秋主慶秋主

等訪尚以是達秋

天朝に對し、聊も進

動存也

蘭州女安府洛陽府

漢通に於て、在民以柳



勅在也

高州在安府洛陽府

以通に於て有る者民に排

外是極の此處より驚く

いふ所は武備學堂

之毎朝出陣し排外の

軍勢の懐効は少年及

強の有誠名は今も十五

を御し鋭意出陣と表

風し望し車外書に結合

し望し望しに抗せんとの意

氣はの氣をには其人の死

望し望し望し望し望し

人我は支那人の我人に抗

氣はたの氣をにに去るの元

海をたふすりて去る

人或有支那人の税

すはたは冠帯に著る

一帯に即ちよみん

星はたすは計は

或有海客の計の本

敵にまゝすまはる

更抗しとて海客

之は低とて海客

一は是の海客

たはたの海客

いれとて海客

情に深しとて海客

力まよふ内好右と人微

一七五瓶、能知世の経

と云ふ事、是れ又反抗的

思想と曰印情と云ふは

早稲宮の又造所の支那宮

學生が互に嫌ふ事には有

り有る事、即ち即留學地

は事と、福格と云ふは、

神職と云ふは、故に有民

把事と云ふは、是れ同音に

書に對して、事と云ふは、

亦産は善治、在る事、又那

留學學生に、是れは彼等に

革命思想、漢人、一級等に

贈礼と云ふは、信儀、執鞭

留學生に「日本は彼等に

革命思想を授けしむるに

贈礼せしむるに

之向に日本は支那を分刺せ

んとすの意以外ならざるべし

考へて支那の革命が日本に不

利ある行刺するべしと知る

も極く知らずして現に考者に轉

せらるゝ日本及び支那の借入に

の密約を結ぶるに種々の疑

懐く意起しせしむるに

建設的の支那革命の事業に

支那が南州にもあるもの一

の存周に徳と日本の不測に

支那の革命は支那の自強革命

なりとすにほなかりしは

の存周に徳比命の不到
蒙中はれは 夫人の自叙
七のふふふに法をいふ 幸は
次解國に紅伊程に法をいふ
んが神君之答と然ら
る海に報告す可中と
好書再拜

北正
在り奉公佳銘

青芳娘雅
お

大隈伯夫人

右前